

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））  
難治性疾患の継続的な疫学データの収集・解析に関する研究（H29-難治等(難)-一般-057）  
分担研究報告書

## びまん性肺疾患に関する研究

研究協力者：中村幸志・玉腰暁子（北海道大学大学院医学研究院公衆衛生学教室）  
高橋弘毅・千葉弘文（札幌医科大学医学部呼吸器・アレルギー内科学講座）  
稲瀬直彦（東京医科歯科大学）

研究要旨：びまん性肺疾患に関する調査研究班の4つの分科会のうち、特発性間質性肺炎分科会の臨床調査個人票・重症度分類部会に参画し、臨床家と意見交換を行った。臨床調査個人票を利用した特発性間質性肺炎の記述および予後分析疫学調査の実施について検討した。

### A．研究目的

びまん性肺疾患に関する調査研究班（研究代表者：稲瀬直彦・東京医科歯科大学・特命教授）は、1)稀少難治性びまん性肺疾患（ヘルマンスキーパードラック症候群併発間質性肺炎、肺胞蛋白症、肺胞微石症）、2)難治性気道疾患（難治性びまん性汎細気管支炎、閉塞性細気管支炎、線毛機能不全症候群）、3)特発性間質性肺炎、4)サルコイドーシスという4つの分科会に分かれて研究を行っている。これに疫学専門家の立場で参画し、臨床家と意見交換を行う。

### B．研究方法

「びまん性肺疾患に関する調査研究」班（以下、臨床班）の班会議に出席した。臨床班内の4つの分科会が取り扱う稀少難治性びまん性肺疾患、難治性気道疾患、特発性間質性肺炎、サルコイドーシスに関する情報を収集した。特に、特発性間質性肺炎分科会の臨床調査個人票・重症度分類部会（会長：高橋弘毅・札幌医科大学呼吸器・アレルギー内科学講座・教授）が計画している臨床調査個人票を利用した特発性間質性肺炎の記述および予後分析疫学調査について、疫学専門家の立場で実施主体の臨床家と意見交換を行った。

（倫理面への配慮）

研究者間の意見交換であったため倫理的問題は生じない。

### C．研究結果と考察

2017年6月と12月の臨床班の班会議に

出席した。稀少難治性びまん性肺疾患、難治性気道疾患、特発性間質性肺炎、サルコイドーシスに関する情報を収集し、診療ガイドラインの作成に資する疫学調査の実施について検討した。さらに、疾病登録システムの継続性、公益の見地に立ったそのデータの有効活用などの課題を見出した。

特発性間質性肺炎分科会の臨床調査個人票・重症度分類部会が計画している臨床調査個人票を利用した特発性間質性肺炎の記述および予後分析疫学調査について、疫学専門家の立場で実施主体の臨床家と意見交換を行った。以前に実施された北海道での調査（第1期）<sup>1)</sup>に倣い、その後継調査（第2期）と位置づけて実施する方向を踏まえて意見を述べた。実施に向け、臨床調査個人票利用の申請が進められた。先の第1期調査の追跡途中で抗線維化薬が登場したのに対し、今回予定の第2期調査の対象期間では抗線維化薬の投与は標準的な治療として広く行われている。診療指針が変化したため、特発性間質性肺炎の予後が変化した可能性があり、新たに調査を実施する意義がある。

### D．引用文献

1) Natsuzaka M, Chiba H, Kuronuma K, Otsuka M, Kudo K, Mori M, Bando M, Sugiyama Y, Takahashi H. Epidemiologic survey of Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis and investigation of ethnic differences. Am J Respir Crit Care Med 2014; 190: 773-779.

E．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

F．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

G．共同研究を行った他の難病研究班

本研究は厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業「びまん性肺疾患に関する調査研究」班（研究代表者：稲瀬直彦・東京医科歯科大学・特命教授）との共同研究として実施した。